

班員 迫田 隆吾 高木 海 奈須 唯斗

指導者 大西圭先生 コーチメンター 上ノ原一道さん

### 研究の動機

海産物の加工の際に出る牡蠣殻などの本来廃棄されるものの形を変え、有意義に使うことができないかと考えた。

また、そのことで人を呼び込み、延岡に少しでも活気を取り戻す事ができるのではないかと考えた。

### 研究の目的

漁業などで出る廃棄物のみならず、身近にあるものを使うことでアートの楽しさを広めるとともに、少しでも観光客を増やすため。

### 先行研究

高松第一高等学校では、瀬戸内海でよく取れるアサリ、ハマグリ、カキの貝殻を使ってチョークを作り、貝殻の廃棄を少なくする研究をしていたのでそれを参考にした。



延岡ではカキが多く採れるため、カキの貝殻をチョークの材料とした。

### 研究方法

- ①漁業などで出る廃棄物でチョークを作り、土で絵の具を作る。
  - ②チョークは先生方に実際に使ってもらい耐久性を調べる。
  - ③イオンなどの商業施設で体験型の絵で展示してもらい、改良点を探す
  - ④宮崎県のイベントに参加して様々な人に作品を見てもらう。
- また、体験型のイベントも行う。



**仮説** 「自然界から出たものから身近な物になるという」というアイデアが多くの人目に止まり、注目されるのではないかと考えた。

### 必要な道具

ざる 水糊 パレット 牡蠣の貝殻 電気炉 絵を描くための紙

### 研究結果

結果的には実用的なチョークは作ることができなかった。

### 考察

今回チョークを作る際の粒子が大きかったため、崩れやすくなったと思う。粒子を小さくするには高温で熱して砕く作業が必要だったがその工程をすることができなかった。また、延岡市内では電気炉や破砕機を借りることができなかったためこの研究を果たすことができなかった。(努力はした)

先行研究での高松第一高校周辺では、そういった機器を使用しやすい環境だったため研究が進められたものと考えられる。

### 謝辞

この研究にご協力くださった大西先生、コーチメンターの上ノ原さん、牡蠣殻を提供して頂いた七条水産の方に深く感謝を申し上げます。

### jめぐろスマートライフ

<https://www.megurosmartlife.jp/2018/08/22/%E5%9C%9F%E3%81%AE%E7%B5%B5%E3%81%AE%E5%85%B7%E3%81%A7%E7%B5%B5%E3%82%92%E6%8F%8F%E3%81%84%E3%81%A6%E3%81%BF%E3%82%88%E3%81%86/>

高松第一高等学校の研究

<http://www.taka-ichi-h.ed.jp/img/R01-5.pdf>